

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	利用者が楽しめる入浴になっていない。	利用者さんの状態に合わせて工夫して、楽しめる入浴が出来るようにする。	入浴剤、音楽などを使用してリラクセスして楽しめる入浴に取り組む。	12ヶ月
2	40	利用者が楽しめる食事を提供する。	メニューの工夫や食レクイベントを考え実施する。	重度の方が増えて来ているが、見た目や食材の工夫、音楽などで雰囲気作りをして楽しめる食事時間を提供する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

# 1 自己評価及び外部評価結果

赤線で困ってある箇所を記入ください

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990600045
法人名	医療法人 みずほ会
事業所名	グループホームすさき
所在地	須崎市多ノ郷甲5741
自己評価作成日	令和4年11月20日
	評価結果 市町村受理日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件も良く、1階に通所リハビリがあり、時折、理学療法士、作業療法士の先生が2階に上がってこられたり、隣の須崎医療クリニックとも医療連携ができており、すぐに看護師、医師が訪問看護や、往診に来て下さり、すぐに対処して下さいるので、利用者の体調を崩す事も少なく入院も少ないです。

施設の中では、利用者さんそれぞれが、自分のペースで過ごされ、お互いの出来る事は協力しながら、ゆったりと穏やかに過ごされております。

コロナ禍の中ですが、単調な暮らしにならぬように心がけております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホームすさき運営推進会議
所在地	須崎市多ノ郷甲5741
訪問調査日	運営推進会議日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の1階は通所リハビリテーション事業所な為、理学療法士、作業療法士の先生からのアドバイスも多かったです。緊急時の対応にも安心がある施設です。

介護者本位にならないよう、事業所理念をよく確認し、過ごしやすい空間を作ること心がけている。利用者さんの話に耳を傾けたり、表情から利用者の希望する介護の把握に努め、職員全体で検討している。

コロナ禍で外との交流が減ってきているが、季節の花を飾ったり、お誕生会を行ったり、運動されたりして楽しく過ごされています。

## 【訪問調査員記入】

事業所側対応者	
主任調査員	職 名
調査員	氏 名
調査員	ヒアリングを行った職員数 ( ) 人 ※上記対応者除く

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: そよ風(北)

自己評価	外部評価	項目		外部評価	
		自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
<b>I. 理念に基づき運営</b>					
1		<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員採用時に管理者より理念を説明している。毎年、研修を実施して理念や法令順守事業所の存在意義など、話している。</p>	<p>職員採用時や研修で理念や法令を説明し、職員の気を引き締め、意識の向上に繋がるようにしており、利用者に寄り添うケアに努めている。</p> <p>年/1回の理解度のチェックを行っている。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容</p>
2		<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナ禍の中で出来ない。</p>	<p>コロナ禍で思うような交流は出来ていないが、施設周辺の外出等できることに取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍ではあるが、地域の行事に参加を考えてほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>コロナ禍の中で、地域ケア会議、認知症家族会に参加出来ているが、他の活動は出来ない。</p>		
4		<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回、少人数ではあるが、運営会を開きユニットの状況を報告、悩み事困りごとなど相談して、意見アドバイスを頂いている。</p>	<p>コロナ禍が人数に制限をしているが、2か月に1回運営推進会議を開催している。利用者の家族からの意見をしっかりと聞いており、市職員や包括の職員からのアドバイスも取り入れようと動いている。</p>	<p>介護スタッフにフィードバックされるように期待する。</p>
5		<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市職員に参加して頂いており、相談、助言、アドバイスを頂く事が出来る関係性にある。</p>	<p>運営推進会議に市職員が参加していること。また、年に4回のグループホーム管理者会にも市職員が参加しており意見交換を密に行っており、助言や情報交換できている</p>	<p>市職員、包括支援センター職員より他施設の情報も頂き、良いところは取り入れるようにして頂きたい。</p>
6		<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月末に虐待防止委員会を開いている。運営推進会議の後、身体的拘束等適正化委員会を実施している。</p>	<p>月1回以上ユニット会で職員に周知するほか、内部研修を積極的に行っており、職員は身体拘束のないケアに取り組んでいる。研修には接遇に関する物もあり、利用者への言葉使いにも配慮している。</p>	

7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年2回内部研修実施、毎月末の虐待防止委員会の実施、2か月に1回身体的拘束適正化員会を実施している。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修は出来ているが外部研修は出来ていない。 法令順守、利用者さんの権利擁護に気を配っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が契約時や、改定のさいには、書面に沿って理解を得られる十分な説明を行っている。 問い合わせがあれば、その都度説明している。</p>		
10 (6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の方から、希望や思いを聞き対応できることは実施している。 家族さんからは、電話で意見を聞いて施設サービス計画に反映させている。</p>	<p>利用者の要望や思いを聞き対応するよう心がけている。コロナ禍な為、いままでできていた家族と直接面談をして意見や要望をもらうことはできなくなりましたが、電話で意見をもらったり運営推進会議で家族から意見をもらっている。</p>	
11 (7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回以上のユニット会を開き、意見交換を行っている。 年2回の職員面談を行い個別に悩みや、意見を聞いている。</p>	<p>経験年数の差など関係なく意見交換ができるようにユニット会を開いている。また、ケアをするにあたって必要だと感じたものはすぐに意見を言ってもらおうようにしており、福祉用具を購入したりしている。</p>	<p>管理者だけでなく、代表者も参加できるようにする。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>考課表を基に、昇給、賞与に反映させている。 有資格者は、正職への雇用となっている。 法人に職員相談窓口がある。 研修に参加しやすい環境を整えている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は毎月行っているが、外部研修はオンライン研修など機会が少なくなりました。管理者が指導を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>須崎市主催の会議、研修、須崎市地区のグループホーム管理者連絡会に参加している。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時は、環境変化への戸惑いを理解し、ご自身のペースを優先して、まずは施設に慣れて頂くように、安心して暮らして頂けるように、努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から家族さんの困りごと、要望を聞き関係づくりに努めている。 入居後も近況報告をして、関係作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時「まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人とご家族の要望をお聞きした上で状況状態を確認し随時ケアを見直し検討しながら施設サービスを提供している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>自己決定を重視しながら、本人らしく出来る事にして頂きながら家事手伝いなど職員と一緒にすることにより喜びや達成感を感じて頂くように施設サービスを実施している。</p>		

19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中で、連絡は取れているが連携は難しくなっている。 毎月、担当者よりお便りを送っている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中で、出来ていない。	コロナ禍の状況で、取り組みが困難となっている。	最新の通信手段を利用してコミュニケーション出来るように検討してほしい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って調整がいる時もあるが、おおむね利用者さん同士の会話や、共同での家事手伝いなど出来ている。 苦手な利用者さん同士の距離感も考え対応している。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で出会った時は、挨拶をして、お互いの近況報告をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の申し送り、月1回のユニット会、担当者会などで、本人意見や、職員の意見を出し合い検討して施設サービス計画に反映させている。	利用者の意見や行動、表情から意向をくみ取れるように心がけており、職員同士でも意見交換をすることでその人らしい暮らしができるようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設サービス計画作成担当者は、入居時などに十分なアセスメントを心掛けている。 本人や、家族さんに入居前の情報などを頂き把握して、ケアをしながら月1回以上のユニット会で話し合っている。		

25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や、身体状況は、日々の申し送りの中で共有できている。 心の状態や有する力、認知症状の変化などの把握の為、ユニット会を開いている。 変化が見られた場合は、ケースカンファレンスを 行っています。			
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれ意識やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施、状態が変化した場合スタッフ全員で話し合い、施設サービス計画を作成している。 家族さんから電話で話を聞き施設サービス計画に反映させている。	毎月のモニタリングで利用者の変化を察知できるようにしており、状態が変化するとサービス内容を職員全員で話し合い、家族からも電話で意見をもらい施設サービス計画を作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送りを共有して、スタッフ会で話し合い、検討して施設サービス計画に反映させている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、早期発見を行い負担となる受診や入院回避の支援を行っている。 外部受診など、職員で受診している。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過の中ですが、状況を見ながら、道の駅などの協力を頂き外出を数回行っています。			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に訪問診療に移行できる事も説明している。かかりつけ医との相談を報告している、体調不良時には、密に医療と連携を図り早期回復に、努めている。状況によっては、職員が専門医受診支援を行っている。	隣に病院があり、入居時に訪問診療に移行できることを説明している。 また、かかりつけ医と相談した内容を家族へ報告しており、体調不良時には医療機関と連携し早期の対応に努めている。	施設職員だけでなく家族や介護タクシーなど地域も入れている受診支援を考えてほしい。	

31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日医療連携訪問があり、看護師が利用者さんの相談や体調を見て職員にアドバイスをしてくれる、体調不良時の連携や、救急時の場合は、24時間連携が取れる体制をとっている。			
32	○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、面会の際や電話にて医療機関の相談員と入院から退院に至る迄の間、情報交換に努めご本人が安心して施設に帰ってこれよう支援している。 また、近隣病院から入居状況などの問い合わせ等あり、そういった際に関係作りを行っている。			
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が契約時に重度化した場合、看取りの説明はしている、体調など報告して家族の協力をえながら、また家族の思いもくみ取りながら医療、両ユニット連携を取りながら取り組んでいる。	入居時に看取りについての説明をしており、医療と連携しながら本人家族の希望に沿うように行っている。看取りの内部研修も行っており、看取りを繰り返しながら課題や問題点を次に活かしている。		本人さんの希望をふまえた上で計画をお願いしたい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、緊急時の判断、初期対応、連絡方法など、内部研修、緊急時対応訓練など行っている。			
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練、防火訓練、風水害避難訓練、AED蘇生訓練、防犯訓練を実施している。	防災避難訓練、防火訓練、風水害避難訓練、AED蘇生訓練、防犯訓練を実施しており、緊急時に対応できるように努めている。		コロナ禍であっても、地域との連携を図ってほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修やユニット会で取り上げ検討をしている。特に管理者からの指導もあり言葉かけに注意をしている。	内部研修で接遇について学んだりユニット会で共有している。利用者のいままでの職業や役割に応じた声のかけ方をしている。		



37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自己決定出来るように、こころがけている。 介護度の重い方も、思いを考えケアするようにしている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん一人、ひとりの一日の過ごしかたを理解して、合わせたケアを行っている。			
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	利用者さんの体調や、特徴に配慮してケアをしている。 年2回衣替えを実施している。 買い物代行も実施して、いつも清潔な物を着て頂けるように心がけている。			
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さん一人ひとりの特徴や状態を理解して食事の提供を行っている。			お誕生日やイベントの有る時などは、楽しめる食事提供を考えてほしい。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事をスムーズに楽しんで行えるようゼリーを用意したりしている。利用者の表情などを見て食事が嫌なものにならないよう配慮しながら口へ運んでいる。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本1日4回行っている。利用者さんの状態に合わせて、ガーゼによる口腔ケアや声掛け、見守り、清潔保持に努めている。 義歯は夜間消毒を実施している。 清潔保持のため、食後ゼリーを摂って頂いている。			
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合わせて、トイレや紙パンツの種類を検討して対応している。排泄子チェック表を使ってリズムを把握しトイレへの促しをしている。			

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>起床時にコップ1杯の水を飲んで頂く事、腹部マッサージのサポート。</p> <p>暮らしの中で自然と発生する活動と1日2回の体操、歩行練習で排泄へとつながるように努めている。</p>		
45 (17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴できる環境をつくっており週2回程度入浴ができていますが、楽しめる入浴とまでは、なっていない。</p>	<p>入浴できる時間帯を広めに設定しており、入浴することへの提案をするようにしている。</p>	<p>入浴剤を使うなど入浴を楽しめる工夫をお願いしたい。</p>
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間良眠に繋がれるように、一人ひとりの入眠時間に合わせている。</p> <p>夜間の様子を探り、日中の活動、排泄、水分摂取など見ながら支援を行っている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬している薬の情報を申し送りで把握出来るようにしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者さん一人ひとりの楽しみもあり、利用者さん同士での楽しみも見られる。</p>		
49 (18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナ禍の中思うような支援は出来ていないが施設周辺の外出など可能な限りの取り組みができています。</p>	<p>コロナ禍の中思うような支援は出来ていないが施設周辺の外出など可能な限りの取り組みができています。</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防に努めながら季節を感じられる外出支援を希望する。</p>

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には、お小遣い程度の金額を預かり、施設で管理しているが、希望があればいつでも利用できるようにしている。 コロナ禍の為に、買い物は職員が代行した。</p>	
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>支援できる体制はできており、職員が電話をかけ話しをして頂いたり、職員が変わって電話をしたりしている。</p>	
52 (19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や湿乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度、湿度、日差しの調整など空間の調整や、季節に応じた装飾を意識する事を取り組んでいる。また、季節ごとに生花を飾るようい努めている利用者さん同士トラブルにならないように席の工夫もしている。</p>	<p>利用者が不快に感じないよう、温度、湿度、日差しについて調整しており、殺風景にならないよう、季節を感じられる花を飾るようになっている。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者さん一人ひとりがマイペースで居室で過ごされている時間がある。 ホールでは、利用者さん同士で制作品や、テレビの話題などについて談話を楽しめる時間がある。</p>	
54 (20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居契約時に、馴染みの物の重要性をお伝えし、出来る限り馴染みある物や、思い出のある物を持ち込んで頂けるようお願いしている。</p>	<p>入所時に、馴染みのあるものの重要性をきちんと伝え、持ち込んでもらえるように家族にお願いし、本人が居心地よく過ごせるように配慮している。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者さん一人ひとりの能力を理解してその方にあつたケアを行っている。 廊下手摺、利用者に合わせた足台、歩行器、車椅子など用意している。 夜間の足元灯による誘導灯を活用している。</p>	

# アウトカム項目は各ユニットごとで作成してください

ユニット名: そよ風

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 青空(南)

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1 (1)		<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員採用時に管理者より理念を説明している。毎年、定期的に理念や法令順守事業所の存在意義など、話している。</p>	
2 (2)		<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナ禍の中、地域との付き合いは出来ていない。地域の行事にも、参加出来ていない。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域ケア会議、認知症家族会に参加しているが、他の活動は、出来ていない。</p>	
4 (3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回、少人数ではあるが、運営会を開催ユニットの状況を報告、悩み事困りごとなど相談して、意見アドバイスを頂いている。</p>	
5 (4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市職員に参加して頂いており、相談、助言、アドバイスを頂く事が出来る関係性にある。</p>	
6 (5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月末に虐待防止委員会を開いている。運営推進会議の後、身体的拘束等適正化委員会を実施している 年2回内部研修を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回内部研修実施、毎月末の虐待防止委員会の実施、2か月に1回身体的拘束適正化委員会を実施している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後原制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	年1回以上の内部研修で学んでいる。 法令順守、利用者さんの権利擁護に気を配っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時や、改定のさいには、書面に沿って理解を得られる十分な説明を行っている。 問い合わせがあれば、その都度説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方から、希望や思いを聞き対応できることは実施している。 家族さんからは、電話で意見を頂いている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上のユニット会を開き、意見交換を行っている。 年2回の職員面談を行い個別に悩みや、意見を聞いている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表を基に、昇給、賞与に反映させている。 有資格者は、正職への雇用となっている。 法人に職員相談窓口がある。 研修に参加しやすい環境を整えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践状況</p> <p>内部研修は毎月実施しているが、外部研修はオンライン研修のみとなっている。管理者が、指導を行っている。</p>	<p>実践状況</p> <p>須崎市主催の会議や須崎市地区のグループホーム管理者連絡会に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>				
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者の入居前の情報を収集し入居前にユニット会を開き出来るだけ早く本人を理解しようとしている。入居後もユニット会を開き本人を1日でも早く理解しようとしている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から家族さんの困りごと、要望を聞き関係づくりに努めている。入居後も近況報告をして、関係作りに努めている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人とご家族の要望をお聞きした上で状況状態を確認し随時ケアを見直し検討しながら施設サービスを提供している。</p>			
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>自己決定を重視しながら、本人らしく出来る事をして頂きながら家事手伝いなど職員と一緒にすることにより喜びや達成感を感じて頂くように心がけていますが、認知症状が進み回数は少なくなっている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さんに連絡はとれているが、連携はコロナ禍で難しくなっている。 毎月、担当者よりお便りを送っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中で実施出来ていない。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って調整がいる時もあるが、おおむね利用者さん同士の会話や、ゲーム、共同での家事手伝いなど出来ている。 苦手意識のある利用者さんには、適度な距離感を取るようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で出会った時は、挨拶をして、お互いの近況報告をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の申し送り、月1回のユニット会、担当者会などで、本人思いや、職員の意見を出し合い検討して施設サービス計画に反映させている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設サービス計画作成担当者は、入居時などに十分なアセスメントを心掛けている。 本人や、家族さんに入居前の情報などを頂き把握して、ケアをしながら月1回以上のユニット会で話し合っている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの1日の過ごし方や、身体状況は、日々の申し送りの中で共有できている。心の状態や有する力、認知症状の把握の為、ユニット会を開いている。変化が見られた場合は、ケースカンファレンスを開催して検討している。</p>			
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングを実施、状態が変化した場合スタッフ全員で話し合い、施設サービス計画を作成している。家族さんからも、電話で話を聞き施設サービス計画に反映させている。</p>			
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録、申し送りを共有して、スタッフ会で話し合い、検討して施設サービス計画に反映させている。</p>			
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を活かし、早期発見を行い負担となる受診や入院回避の支援を行っている。外部受診などは、職員で受診している。</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ過の中ではあるが、道の駅などの協力を頂き、数回の外出支援を行った。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前に訪問診療に移行できる事も説明している。かかりつけ医との相談と報告をしている。体調不良時には、密に医療と連携を図り早期回復に、努めている。状況によっては、職員が専門医受診支援を行っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日医療連携訪問があり、看護師が利用者さんの相談や体調を見て職員にアドバイスしてくれる、体調不良時の連携や、救急時の場合は、24時間連携が取れる体制をとっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、面会の際や電話にて医療機関の相談員と入院から退院に至る迄の間、情報交換に努めご本人が安心して施設に帰ってこられるよう支援している。 また、近隣病院から入居状況などの問い合わせ等あり、そういった際に関係作りを行っている。			
33 (12)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が契約時に重度化した場合、看取りの説明はしている、体調など報告して家族の協力をえながら、また家族の思いもくみ取りながら医療、両ユニット連携を取りながら取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、緊急時の判断、初期対応、連絡方法など、内部研修、緊急時対応訓練など行っている。			
35 (13)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練、防火訓練、風水害避難訓練、AED蘇生訓練、防犯訓練を実施している。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36 (14)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修やユニット会で取り上げ検討をしている。特に管理者からの指導もあり言葉かけに注意をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自己決定出来るように、こころがけている。 介護度の重い方も、思いを考えケアするようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん一人、ひとりの一日の過ごしかたにケアを合わせるようにしている。 変化が見られた場合、その都度検討し、対応している。			
39		○身だしなみやおしゃやれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃやれができるように支援している	利用者さんの体調や、好み、特徴に配慮してケアをしている。 年々回衣替えを実施している。 常に清潔なものを着て頂けるように、購入代行も行っている。			
40 (15)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さん一人ひとりの特徴や状態をはあくして提供している。 嚥下、咀嚼が難しいかたには、トロミ、ミキサー食などの工夫で対応している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい食器の検討や、また個人個人にあった量や形態の工夫を行っている。栄養状態については医療連携の看護師・訪問診療医にも相談できている。 チェック表を用いて確認を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本1日4回行っている、利用者さんの状態に合わせて、ガーゼによる口腔ケアや声掛け、見守り、清潔保持に努めている。 義歯は夜間消毒を実施している。			
43 (16)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人が安心出来る事を優先し状態に合わせてトイレ、紙パンツの種類を検討して対応している。 排泄チェック表を活用して排泄リズムを把握できるようにしている。 排泄リズムを作れるようにトイレに座ることを取り組んでいる、失敗に繋がらないように、排泄のサインを意識するようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実践状況	腹部マッサージでのサポート。暮らしの中で自然と発生する活動や歩行練習で排泄へとつながるように努めている。		
45 (17)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	実践状況	入浴できる環境をつくっており週2回程度入浴ができています。認知症状が進んで来て居り、楽しむ入浴となっていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践状況	夜間良眠に繋がれるように、一人ひとりの入眠時間に合わせている。夜間の様子を探り、日中の活動、排泄、水分摂取など見ながら支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実践状況	服薬している薬の情報を申し送り把握出来るようにしている。利用者さんに合わせて、手渡しや、状況によりオブラートを使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実践状況	利用者さん一人ひとりの生活リズムが出来ており、施設での制作、家事手伝いなどできる方は手伝って頂いている。昼食後は居室に戻り休まれる方、テレビを見られる方など自由に過ごされている。		
49 (18)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実践状況	日常的な外出支援は出来なかつたが、様子を見て施設駐車場の散歩などは時折できた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことへの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には、お小遣い程度の金額を預かり、施設で管理しているが、希望があればいつでも利用できるようにしている。 コロナ禍で買いものは、職員が代行している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>支援できる体制はできており、職員が電話をかけ話しをして頂いたり、職員が変わって電話をしたりしているが、回数が少なくなっている。 家族さんから時折、はがき、手紙を頂いている。</p>			
52 (19)		<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度、湿度、日差しの調整など空間の調整や、季節に応じた装飾を意識する事を取り組んでいる。 また、季節ごとに壁面飾りを工夫している。 利用者さん同士トラブルにならないように席の工夫もしている。</p>			
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者さん一人ひとりがマイペースで居室でテレビ鑑賞読書などされ過ごされる時間がある。 ホールでは、利用者さん同士で制作品や、テレビの話題などについて談話を楽しめる時間がある。</p>			
54 (20)		<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居契約時に、馴染みの物の重要性をお伝えし、出来る限り馴染みのある物や、思い出のある物を持ち込んで頂けるようお願いしている。</p>			
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>スタッフ全員でアセスメント、検討、評価して、自立できる支援を考え実施している。 廊下に手すり、トレイの案内板など設置している。</p>			

# アウトカム項目は各ユニットごとに作成してください

ユニット名: 青空

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ても、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ても、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		